

改訂モデル・カリキュラムに基づいた 薬学実務実習に関する事前調査結果

東北地区

調査期間：2015年11月 2日～11月30日

調査の背景（薬局）

都道府県	回答施設数/依頼施設数 (回収率%)	回答施設の背景	
		薬剤師数 (最多数/施設数)	認定薬剤師数 (最多数/施設数)
青森県	35/60 (58.3)	0～11 (2/9)	0～4 (1/25)
岩手県	57/78 (73.1)	1～12 (3/13)	0～3 (1/36)
宮城県	90/122 (73.8)	0～20 (2/16)	0～5 (1/51)
秋田県	17/32 (53.1)	1～14 (4/4)	1～5 (1/8)
山形県	16/40 (40.0)	1～10 (2/7)	0～2 (1/11)
福島県	56/103 (54.4)	0～13 (4/14)	0～3 (1/39)
合計	271/435 (62.3)	0～20 (2/53)	0～5 (1/170)

調査の背景(病院)

都道府県	回答施設数/依頼施設数 (回収率%)	回答施設の背景	
		薬剤師数 (最多数/施設数)	認定薬剤師数 (最多数/施設数)
青森県	8/15 (53.3)	5～29 (5/1)	1～4 (3/4)
岩手県	15/21(71.4)	4～61 (6/2)	1～12 (2/6)
宮城県	30/35 (85.7)	4～89 (6/5)	0～14 (2/9)
秋田県	17/18 (94.4)	5～30 (6/5)	1～6 (2/5)
山形県	12/15 (80.0)	7～35 (12/2)	0～4 (3/6)
福島県	19/29 (65.5)	4～35 (9/4)	1～7 (2/5)
合計	101/133 (75.9)	4～89 (6/14)	0～14 (2/28)

受入れ可能人数(薬局)

都道府県	受入れ人数(施設数)						
	全人数 (受入施設/ 回答施設数)	①Ⅰ期	①Ⅱ期	①Ⅲ期	②Ⅱ期	②Ⅲ期	②Ⅳ期
青森県	79 (26/35)	7 (9)	12 (10)	7 (9)	17 (15)	21 (16)	15 (15)
岩手県	197 (50/57)	28 (20)	29 (21)	29 (20)	36 (26)	38 (27)	37 (27)
宮城県	392 (84/90)	70 (42)	71 (43)	64 (41)	64 (40)	65 (41)	58 (39)
秋田県	59 (16/17)	11 (9)	12 (10)	12 (10)	8 (6)	8 (6)	8 (6)
山形県	42 (13/16)	11 (10)	11 (10)	11 (10)	3 (3)	3 (3)	3 (3)
福島県	173 (46/56)	31 (23)	32 (23)	33 (23)	25 (23)	28 (25)	24 (24)
合計	942 (235/271)	158	167	156	153	163	145

受入れ可能人数(病院)

都道府県	受入れ人数(施設数)						
	全人数 (受入施設／ 回答施設数)	①Ⅰ期	①Ⅱ期	①Ⅲ期	②Ⅱ期	②Ⅲ期	②Ⅳ期
青森県	66 (8/8)	－	－	－	23 (8)	23 (8)	20 (7)
岩手県	173 (14/15)	2 (1)	2 (1)	0 (1)	56 (11)	57 (12)	56 (10)
宮城県	360 (29/30)	28 (8)	26 (8)	26(8)	98 (21)	91 (21)	91 (21)
秋田県	90 (16/17)	10 (6)	12 (6)	14 (6)	17 (9)	21 (11)	16 (10)
山形県	56 (10/12)	5 (3)	7 (3)	6 (3)	11 (7)	13 (7)	14 (7)
福島県	146 (18/19)	8 (3)	8 (3)	6 (3)	42 (15)	42 (15)	40 (14)
合計	891 (95/101)	51 (21)	55 (21)	52 (21)	247 (71)	247 (74)	237 (69)

受入可能な具体的な期間と人数

2期—3名 ・ 3期—3名

2期あるいは3期に3名程度

業務煩雑につき、平成26年度から実習生を受け入れておりません。

“現在、2期に2名の受け入れ薬剤部のスタッフが増員されない限り、これ以上の受け入れはできない。”

検討中

“1期 1人2期 1人”

“1期 1名2期 1名”

1期-2名 2期-2名

1期/1名、3期/1名、4期/1名

2、3、4、期内で年度内1名

“2期 2名3期 2名”

2期・3期:各1名

2期:2人

2期1名 3期1名

2期か3期に2人

“2期で2名を考えています。薬局の状況により、3期も2名で受けることができるかもしれませんが、先の話すぎて、確定はできません。”

2期に1名のみ

2期のみ

2期のみ1名

3期と4期に2名ずつ受け入れ可

3期のみ1名

3期連続の受け入れは、かなりの労力を必要とされ、指導薬剤師1名での受け入れ対応は、非常に困難と思われる。

“3期連続の受け入れは困難。2期、3期のみ各2名程度の受け入れであれば可能。”

“H29 30年ぐらいに病院が移転します。それに伴って、今の薬局が開設できるかどうか分からない状況です。”

“アレルギー、免疫疾患専門内科の処方箋を多く受け付けている薬局です。2期、3期のみ可能になります。人数:各2人。1期、4期はインフルエンザ、花粉症の患者さんが集中するので指導時間が確保できないと思います。”

チェーン店のため本社検討中。

“ワークショップが県内で開催されず実務実習認定薬剤師が1名しかおりません。平成31年度以降で勤務先が変わっている可能性があり現状だと想定できません。”

現在1期/2期と二人ずつ受け入れをしています。平成31年度に受け入れをできるかどうか分かりません。

現在認定実務実習指導薬剤師0のため受け入れ不可です

詳細は電話で相談

第1期～第4期までの間で2期分にて各2名ずつ

第2期 1名

店舗人員での欠員が出たため、受け入れの余裕がなく現状考えておりません。

認定実務実習指導薬剤師の異動があり、現在は受け入れ不可です。

連続した3期は難しいです。

平成26年度実務実習実施状況(薬局)

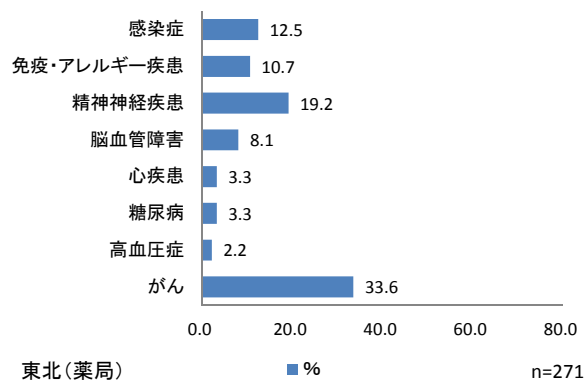
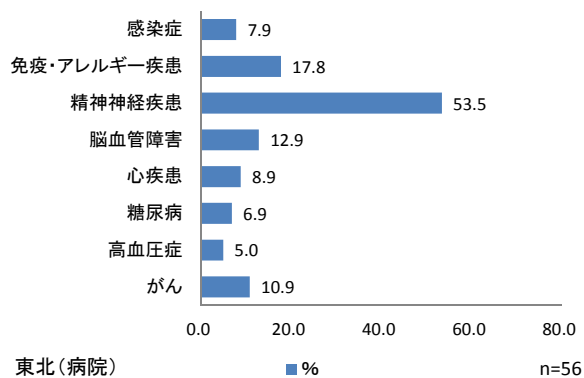
2014/6/13データ

都道府県	薬局実習			
	決定施設数(受入可能施設数)	決定人数(受入可能人数)		
		I 期	II 期	III 期
青森県	65 (115/51)	23 (38)	36 (54)	6 (23)
岩手県	130 (196/30)	45 (59)	49 (79)	36 (58)
宮城県	269 (460/103)	101 (146)	97 (169)	71 (145)
秋田県	27 (/29)	12 (22)	11 (21)	4 (15)
山形県	28 (82/33)	16 (30)	9 (30)	3 (22)
福島県	96 (305/109)	40 (106)	52 (119)	4 (80)
合計	615	237	254	124

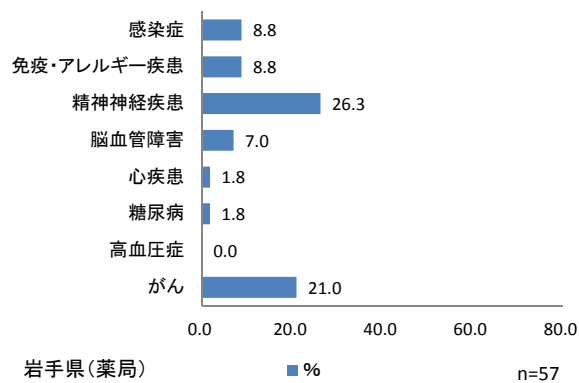
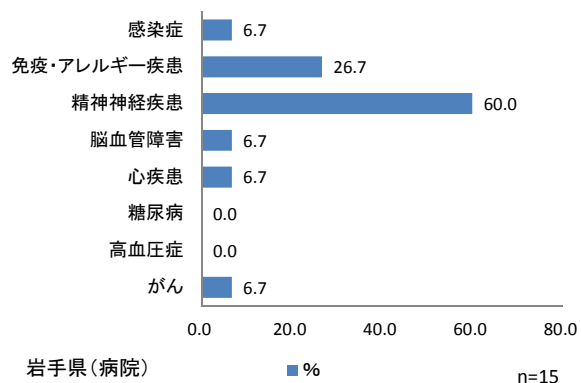
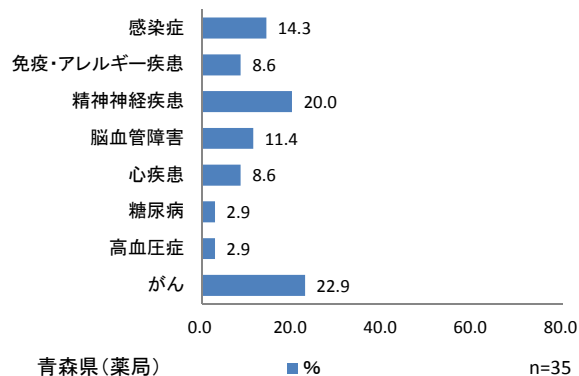
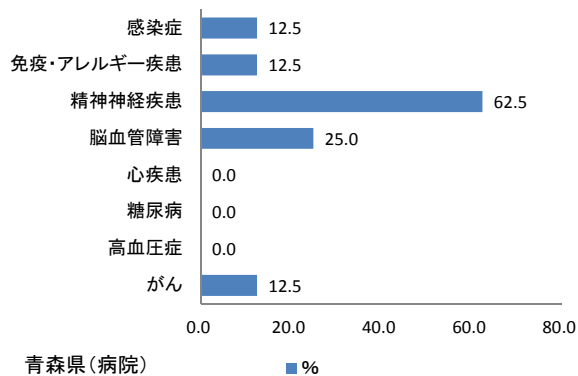
平成26年度実務実習実施状況(病院)

2014/6/13データ

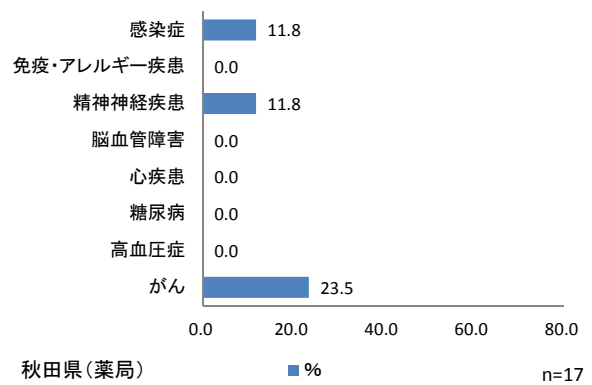
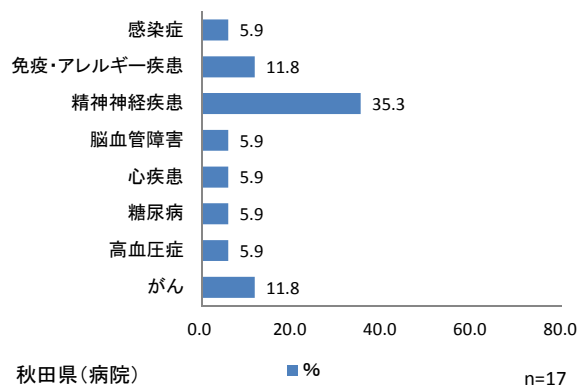
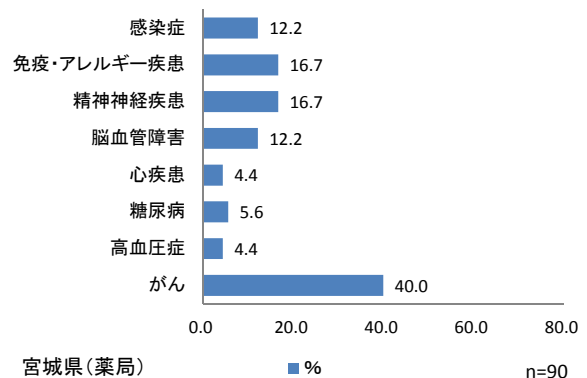
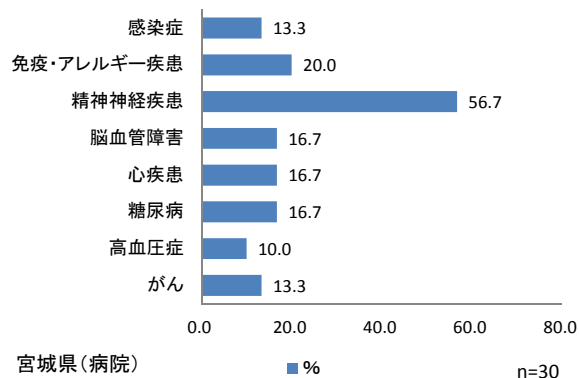
都道府県	病院実習			
	決定施設数(受入可能施設数)	決定人数(受入可能人数)		
		I 期	II 期	III 期
青森県	59 (82/14)	15 (21)	24 (34)	20 (27)
岩手県	143 (176/20)	44 (60)	48 (59)	51 (57)
宮城県	260 (314/36)	91 (105)	94 (116)	75 (93)
秋田県	17 (85/18)	3 (26)	13 (35)	1 (24)
山形県	32 (48/18)	11 (7)	17 (25)	4 (16)
福島県	114 (174/33)	48 (61)	49 (66)	17 (47)
合計	625	212	245	168



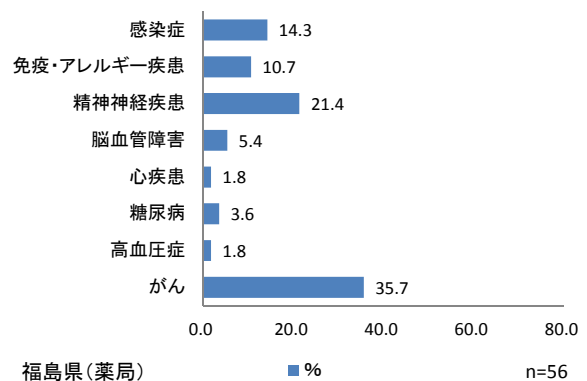
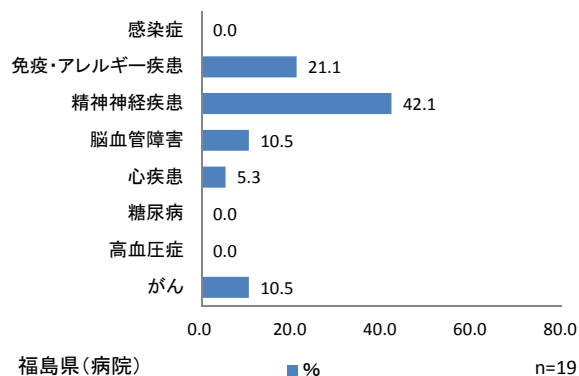
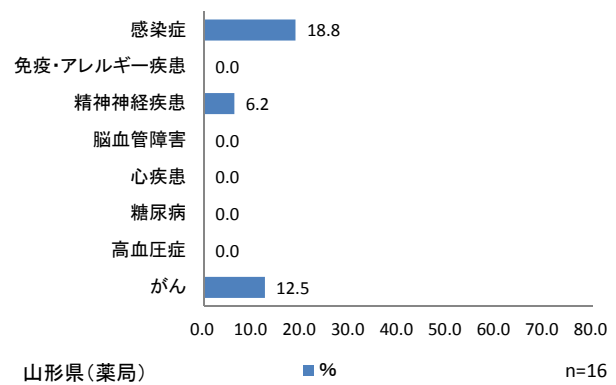
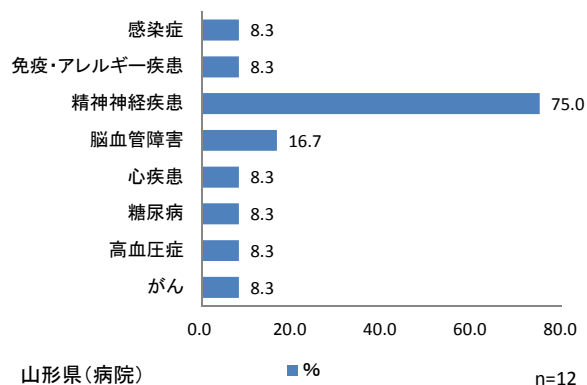
実習できない代表的疾患



実習できない代表的疾患



実習できない代表的疾患



実習できない代表的疾患

がんについて実施できる施設の実習状況

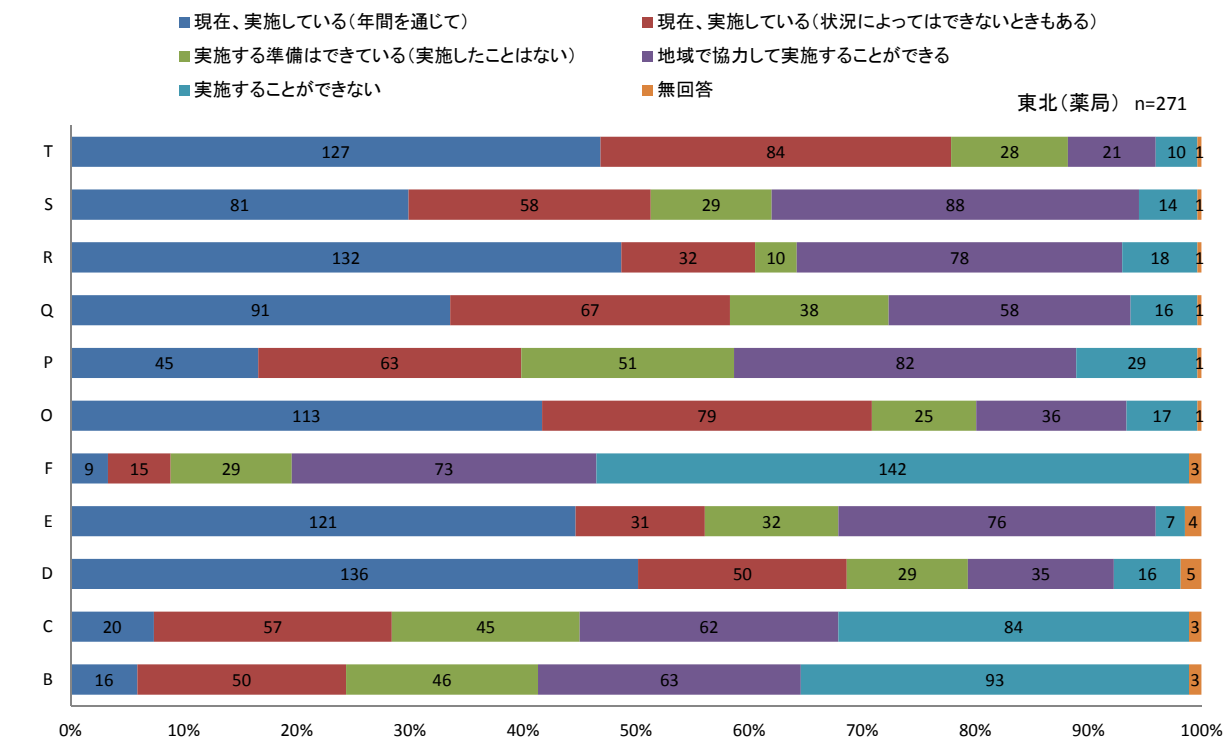
東北	がん実施可能施設数(回答施設数)	実施できない疾患／施設数						
		高血圧症	糖尿病	心疾患	脳血管障害	精神神経疾患	免疫・アレルギー疾患	感染症
全体	270 (372)	2	4	3	15	87	19	14
病院	90 (101)	0	2	3	10	48	11	2
薬局	180 (271)	2	2	0	5	19	8	12

薬局	がん実施可能施設数(回答施設数)	実施できない疾患／施設数						
		高血圧症	糖尿病	心疾患	脳血管障害	精神神経疾患	免疫・アレルギー疾患	感染症
青森県	27 (35)	0	0	0	1	4	0	2
岩手県	36 (57)	0	0	0	2	6	2	1
宮城県	54 (90)	1	1	0	1	2	2	0
秋田県	13 (17)	0	0	0	0	1	0	2
山形県	14 (16)	0	0	0	0	1	0	2
福島県	36(56)	1	1	0	1	5	4	5

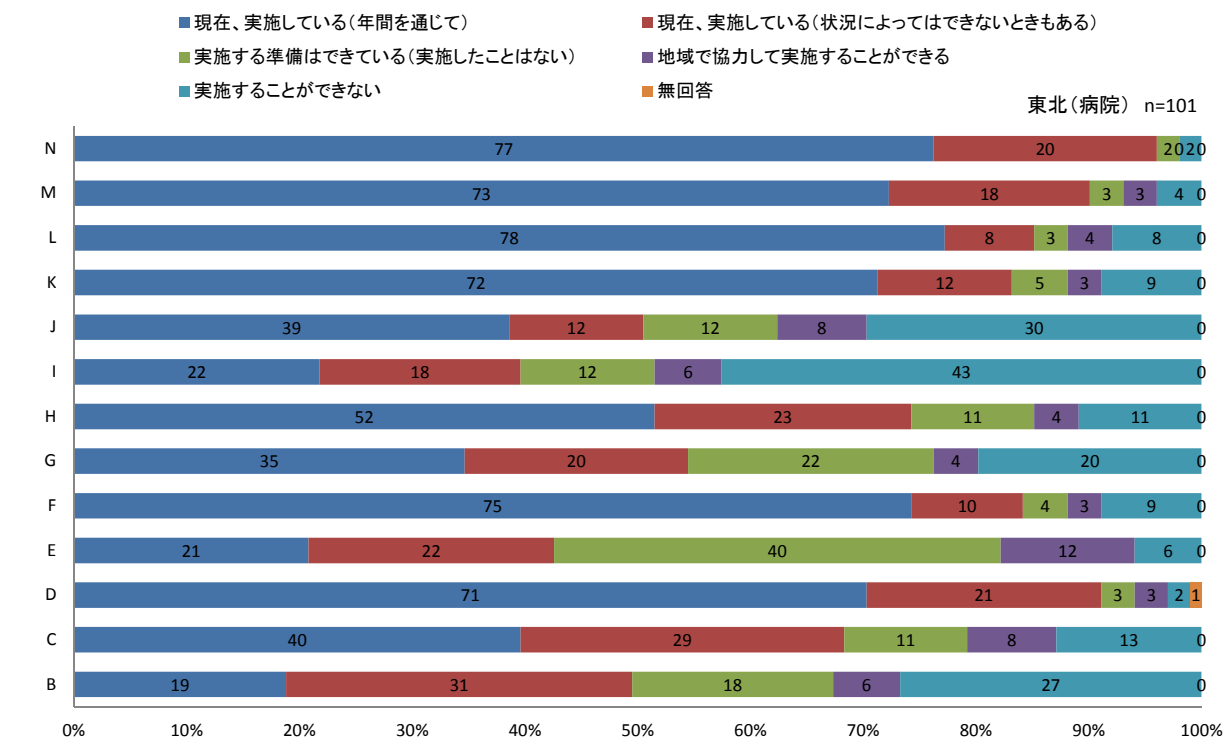
がんについて実施できる施設の実習状況

東北	がん実施可能施設数(回答施設数)	実施できない疾患／施設数						
		高血圧症	糖尿病	心疾患	脳血管障害	精神神経疾患	免疫・アレルギー疾患	感染症
全体	270 (372)	2	4	3	15	87	19	14
病院	90 (101)	0	2	3	10	48	11	2
薬局	180 (271)	2	2	0	5	19	8	12

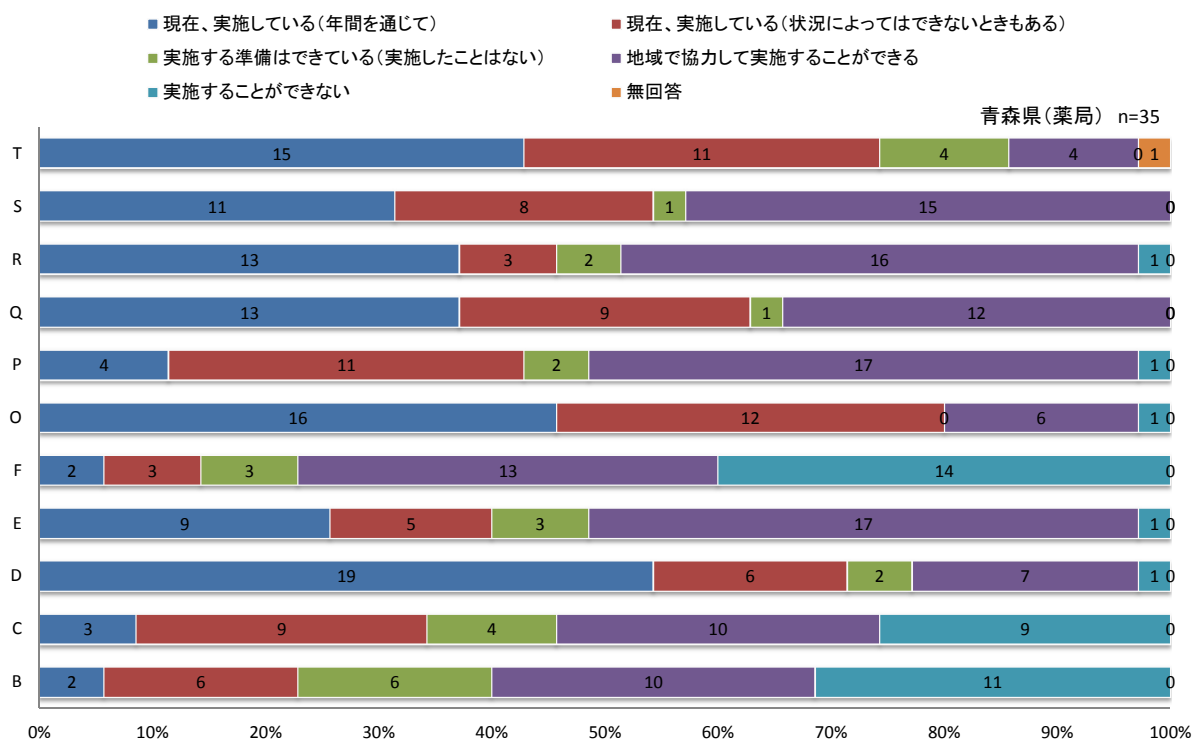
病院	がん実施可能施設数(回答施設数)	実施できない疾患／施設数						
		高血圧症	糖尿病	心疾患	脳血管障害	精神神経疾患	免疫・アレルギー疾患	感染症
青森県	7 (8)	0	0	0	1	4	0	0
岩手県	14 (15)	0	0	0	1	8	3	1
宮城県	26 (30)	0	2	2	5	16	5	1
秋田県	15 (17)	0	0	0	0	5	0	0
山形県	11 (12)	0	0	0	1	8	0	0
福島県	17 (19)	0	0	1	2	7	3	0



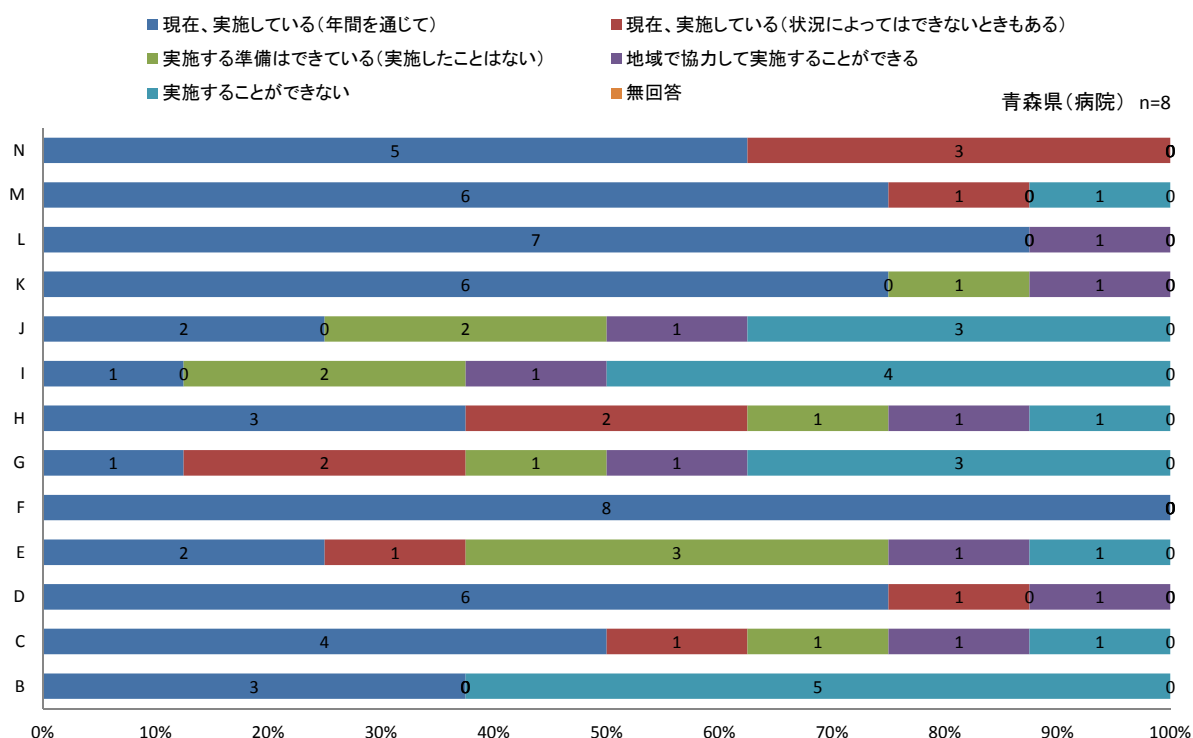
B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考に、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。
O: 処方せん調剤における医療機関と薬局との連携や合同で開催される研修会やイベントを体験する。
P: 地域包括センターや保健所等を通して地域で連携して行われている医療、介護、福祉の実際を確認するとともに、できるだけ実際の活動を体験する。
Q: 薬剤師による在宅医療、居宅介護の支援業務(収集した各種情報に基づいた薬物療法の考察と提案等)を患者宅、施設等への訪問も含め継続的に体験し、在宅に関与する医療、介護スタッフと情報を共有し、患者をサポートする意義を理解する。
R: 学校薬剤師の指導のもと学校薬剤師業務を体験する。
S: 地域で行われている薬剤師の関与する保健衛生活動(薬物乱用防止活動、禁煙活動、認知症サポート等)を確認し、地域の活動に積極的に参加する。
T: 一般用医薬品、健康食品、医療機器等について、特徴や注意点等について確認し、第一類医薬品、要指導医薬品等、法規制に則り実際の店頭で指導薬剤師とともに来局者の健康相談と販売業務(受診勧奨や一般用医薬品販売など)を体験する。



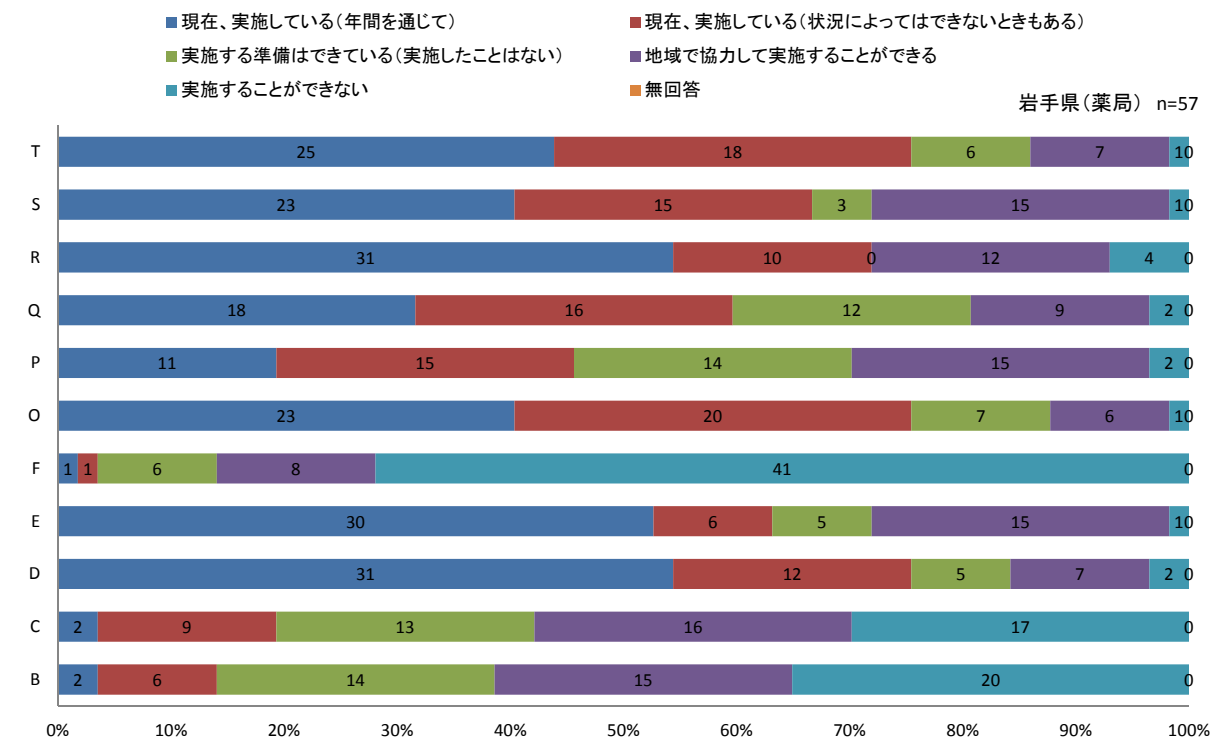
B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考に、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。 G: 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)の実際を体験する。 H: 周術期医療の実際を体験する。 I: 周産期医療の実際を体験する。 J: 小児医療の実際を体験する。 K: 外来化学療法の実験を体験する。
L: がん化学療法のレジメンチェックと抗がん剤調製やケミカルハザードの回避操作を体験する。
M: 代表的な疾患を有する入院患者の薬物治療に継続的に関わり、患者に関する情報の収集と伝達、治療計画の考察、治療効果および副作用の評価等他の医療スタッフとの協働を、複数の病棟活動の中で体験する。
N: カンファレンス、種々の医療チームの活動(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)への参加等、他の医療スタッフとの連携を体験する。



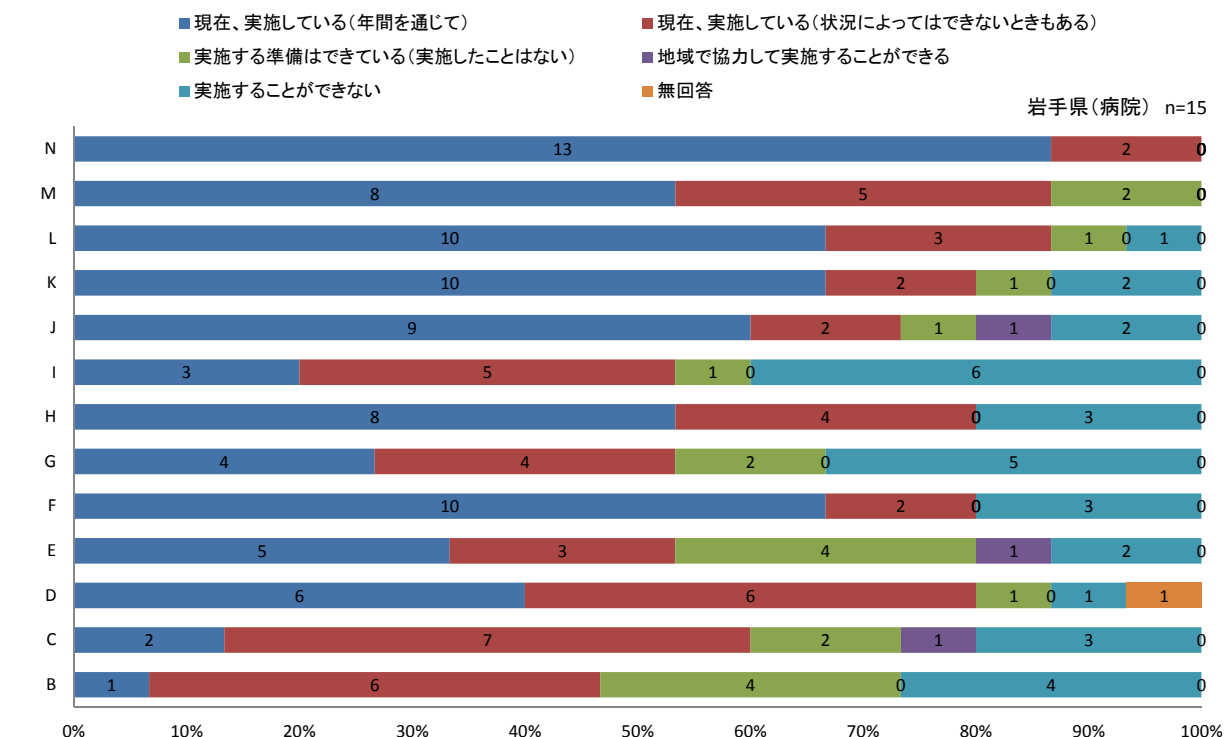
B: 終末期医療の実際を体験する。C: 緩和ケアの実際を体験する。D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。
O: 処方せん調剤における医療機関と薬局との連携や合同で開催される研修会やイベントを体験する。
P: 地域包括センターや保健所等を通して地域で連携して行われている医療、介護、福祉の実際を確認するとともに、できるだけ実際の活動を体験する。
Q: 薬剤師による在宅医療、居宅介護の支援業務(収集した各種情報に基づいた薬物療法の考察と提案等)を患者宅、施設等への訪問も含め継続的に体験し、在宅に関与する医療、介護スタッフと情報を共有し、患者をサポートする意義を理解する。
R: 学校薬剤師の指導のもと学校薬剤師業務を体験する。
S: 地域で行われている薬剤師の関与する保健衛生活動(薬物乱用防止活動、禁煙活動、認知症サポート等)を確認し、地域の活動に積極的に参加する。
T: 一般用医薬品、健康食品、医療機器等について、特徴や注意点等について確認し、第一類医薬品、要指導医薬品等、法規制に則り実際の店頭で指導薬剤師とともに来局者の健康相談と販売業務(受診勧奨や一般用医薬品販売など)を体験する。



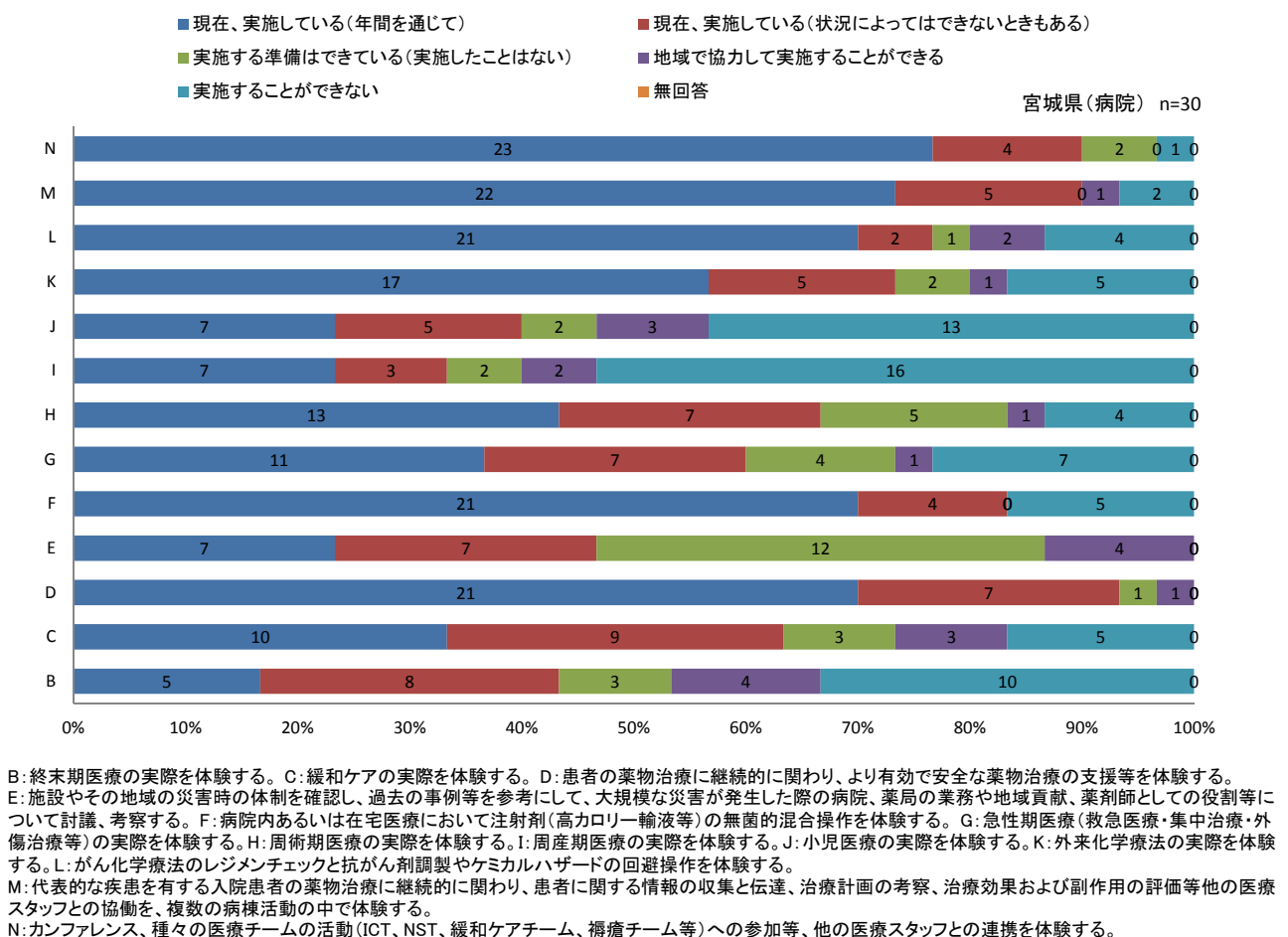
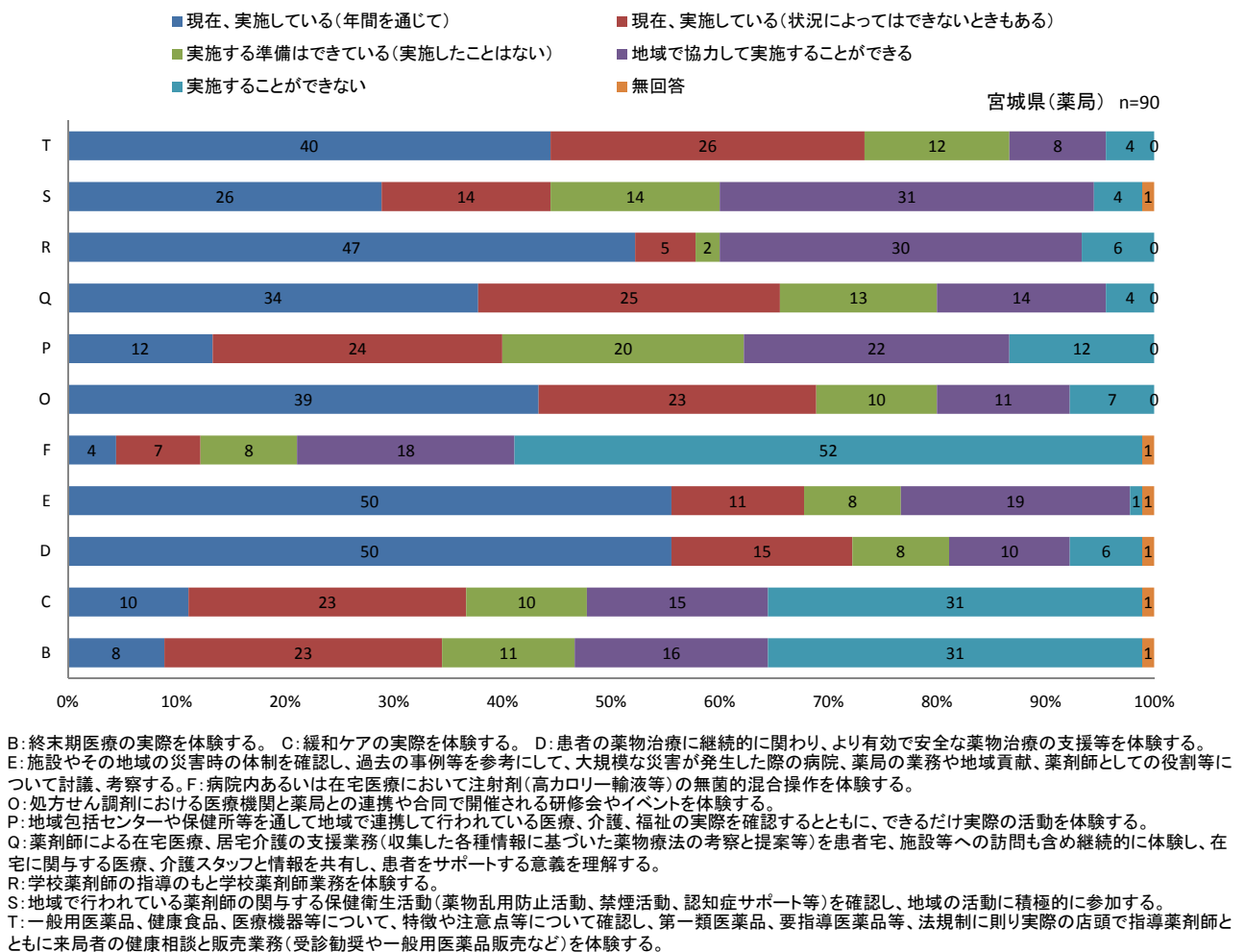
B: 終末期医療の実際を体験する。C: 緩和ケアの実際を体験する。D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。G: 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)の実際を体験する。H: 周術期医療の実際を体験する。I: 周産期医療の実際を体験する。J: 小児医療の実際を体験する。K: 外来化学療法の実験を体験する。
L: がん化学療法のレジメンチェックと抗がん剤調製やケミカルハザードの回避操作を体験する。
M: 代表的な疾患を有する入院患者の薬物治療に継続的に関わり、患者に関する情報の収集と伝達、治療計画の考察、治療効果および副作用の評価等他の医療スタッフとの協働を、複数の病棟活動の中で体験する。
N: カンファレンス、種々の医療チームの活動(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)への参加等、他の医療スタッフとの連携を体験する。

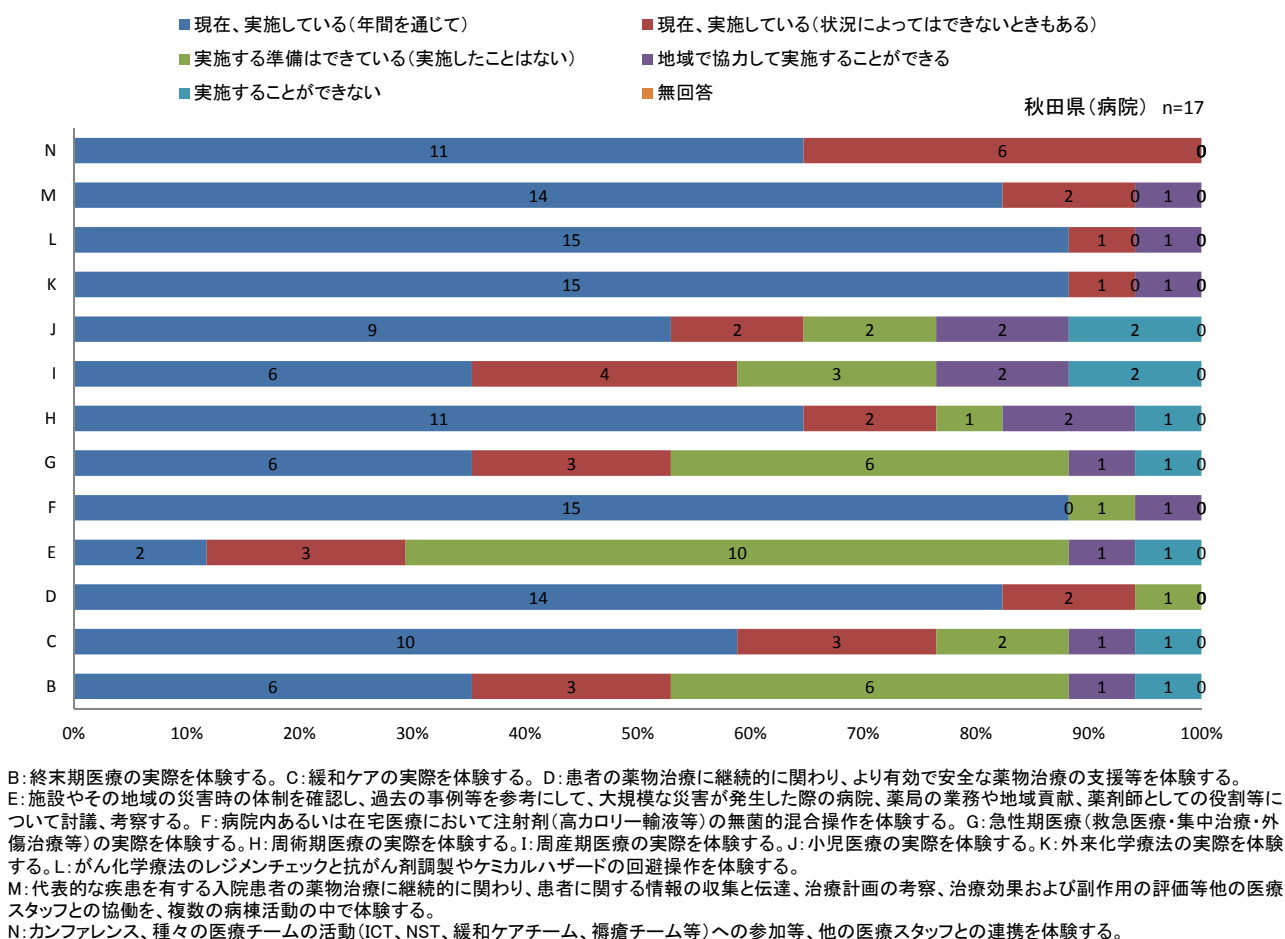
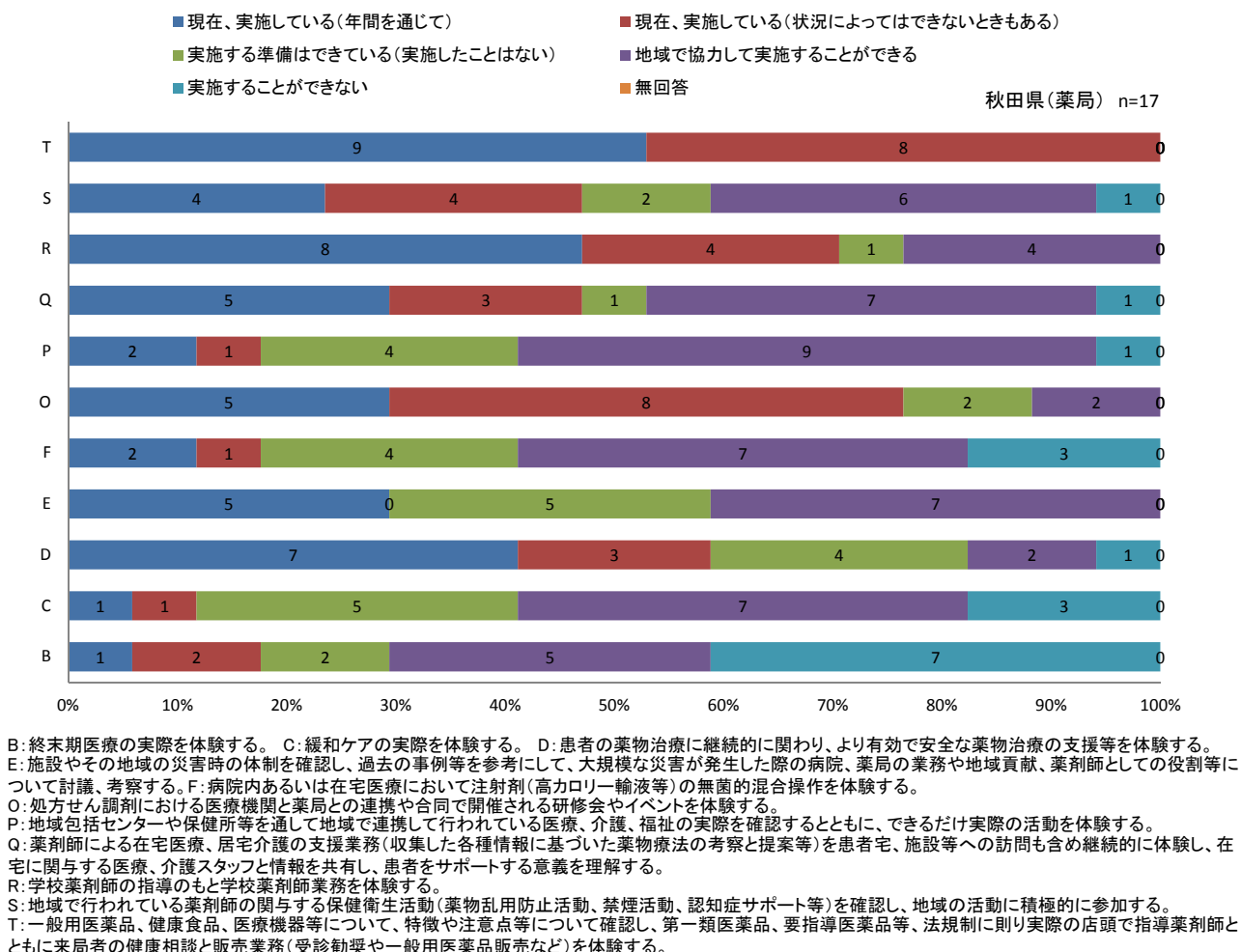


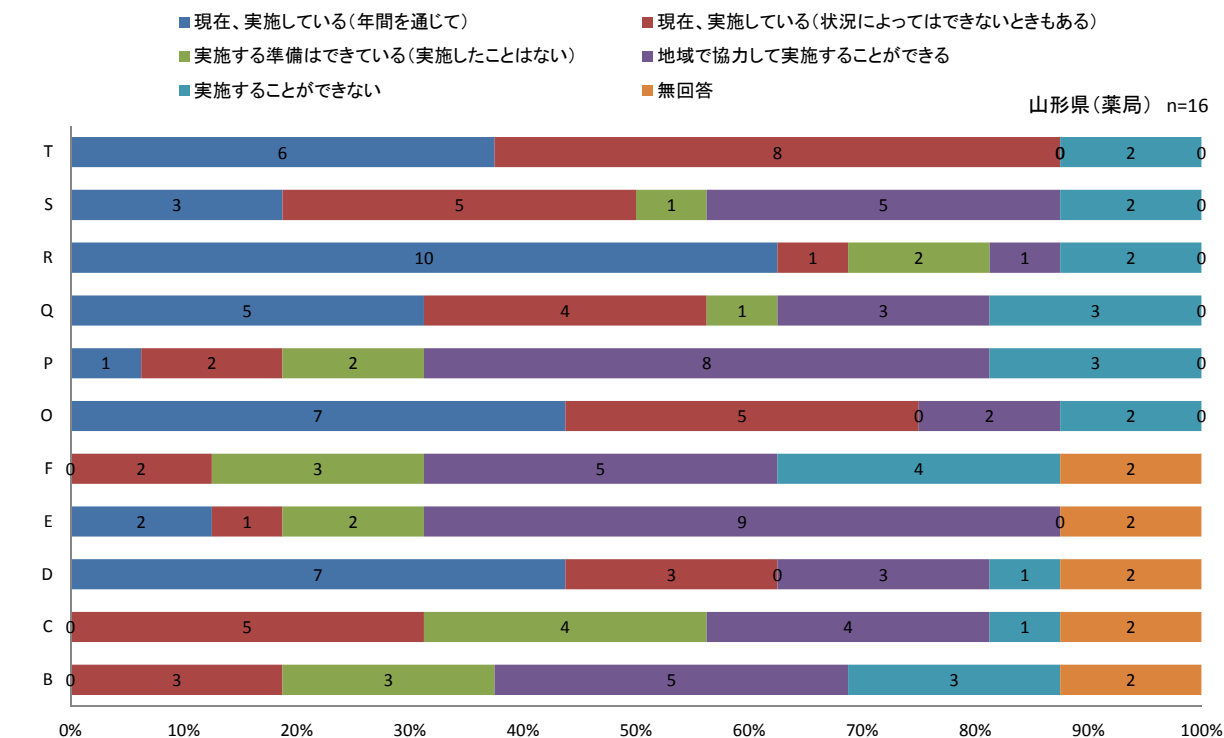
B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
 E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。
 O: 処方せん調剤における医療機関と薬局との連携や合同で開催される研修会やイベントを体験する。
 P: 地域包括センターや保健所等を通して地域で連携して行われている医療、介護、福祉の実際を確認するとともに、できるだけ実際の活動を体験する。
 Q: 薬剤師による在宅医療、居宅介護の支援業務(収集した各種情報に基づいた薬物療法の考察と提案等)を患者宅、施設等への訪問も含め継続的に体験し、在宅に関与する医療、介護スタッフと情報を共有し、患者をサポートする意義を理解する。
 R: 学校薬剤師の指導のもと学校薬剤師業務を体験する。
 S: 地域で行われている薬剤師の関与する保健衛生活動(薬物乱用防止活動、禁煙活動、認知症サポート等)を確認し、地域の活動に積極的に参加する。
 T: 一般用医薬品、健康食品、医療機器等について、特徴や注意点等について確認し、第一類医薬品、要指導医薬品等、法規制に則り実際の店頭で指導薬剤師とともに来局者の健康相談と販売業務(受診勧奨や一般用医薬品販売など)を体験する。



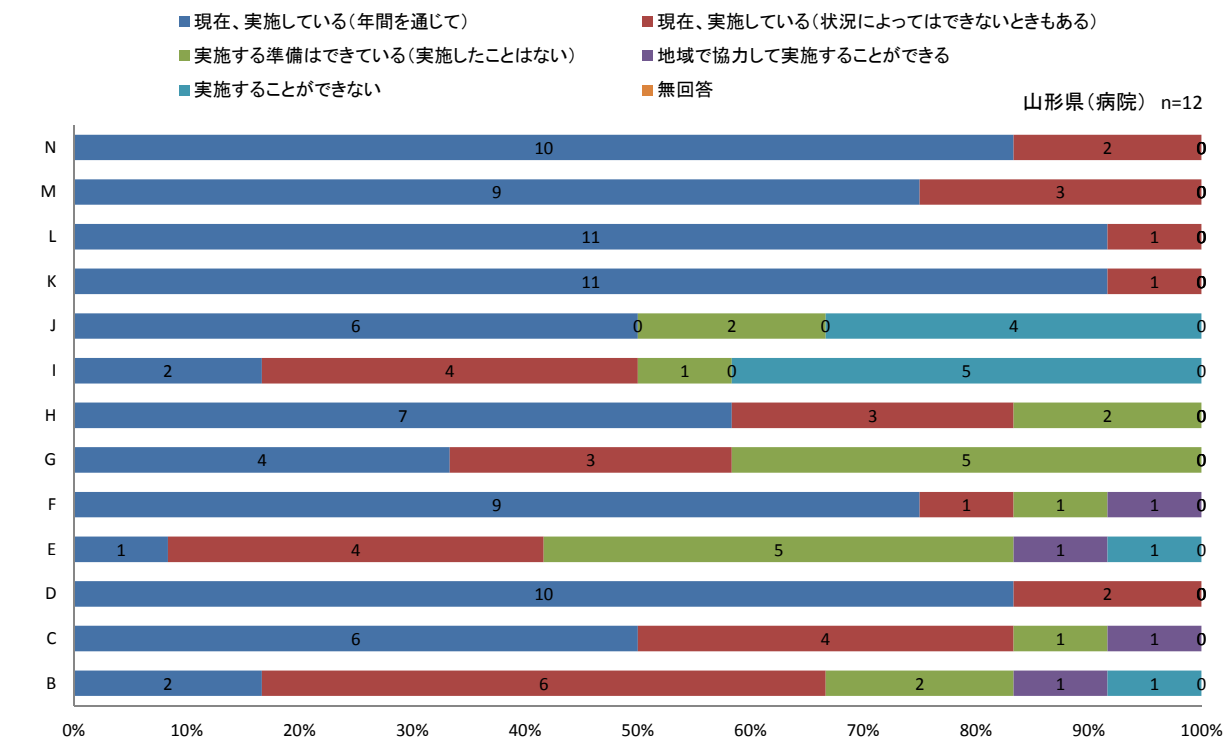
B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
 E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。 G: 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)の実際を体験する。 H: 周術期医療の実際を体験する。 I: 周産期医療の実際を体験する。 J: 小児医療の実際を体験する。 K: 外来化学療法法の実際を体験する。
 L: がん化学療法法のレジメンチェックと抗がん剤調製やケミカルハザードの回避操作を体験する。
 M: 代表的な疾患を有する入院患者の薬物治療に継続的に関わり、患者に関する情報の収集と伝達、治療計画の考察、治療効果および副作用の評価等他の医療スタッフとの協働を、複数の病棟活動の中で体験する。
 N: カンファレンス、種々の医療チームの活動(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)への参加等、他の医療スタッフとの連携を体験する。



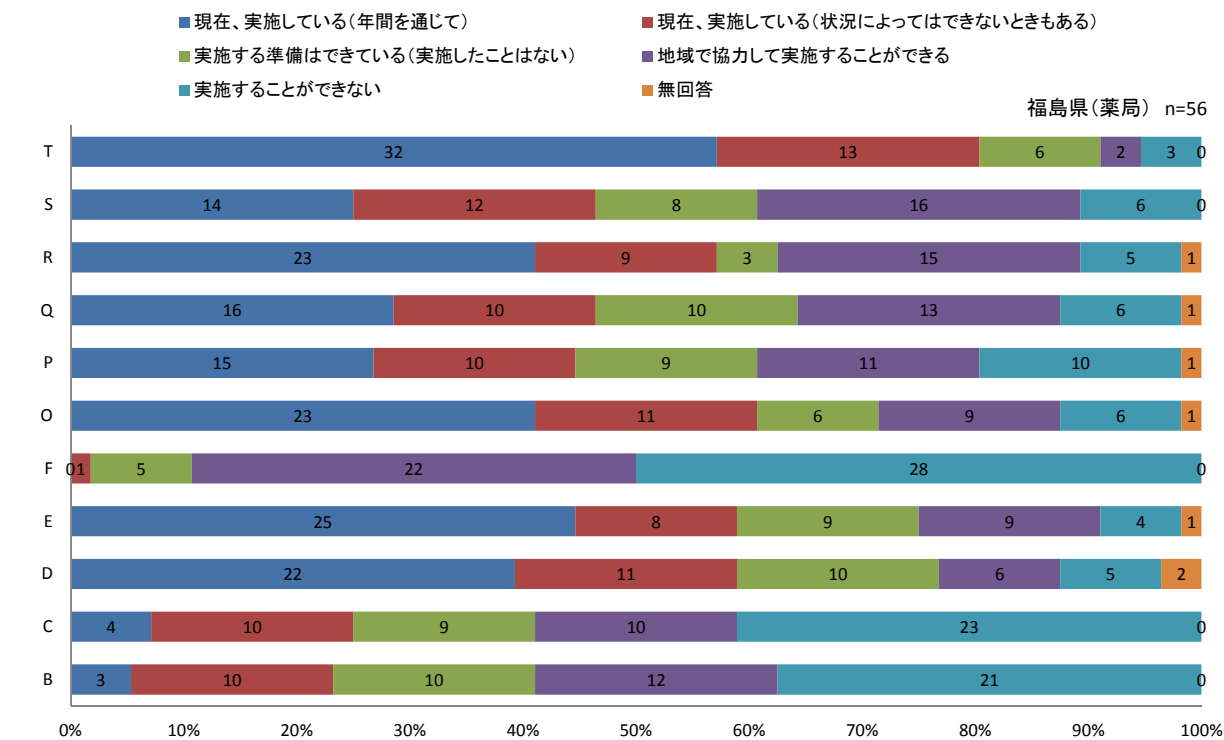




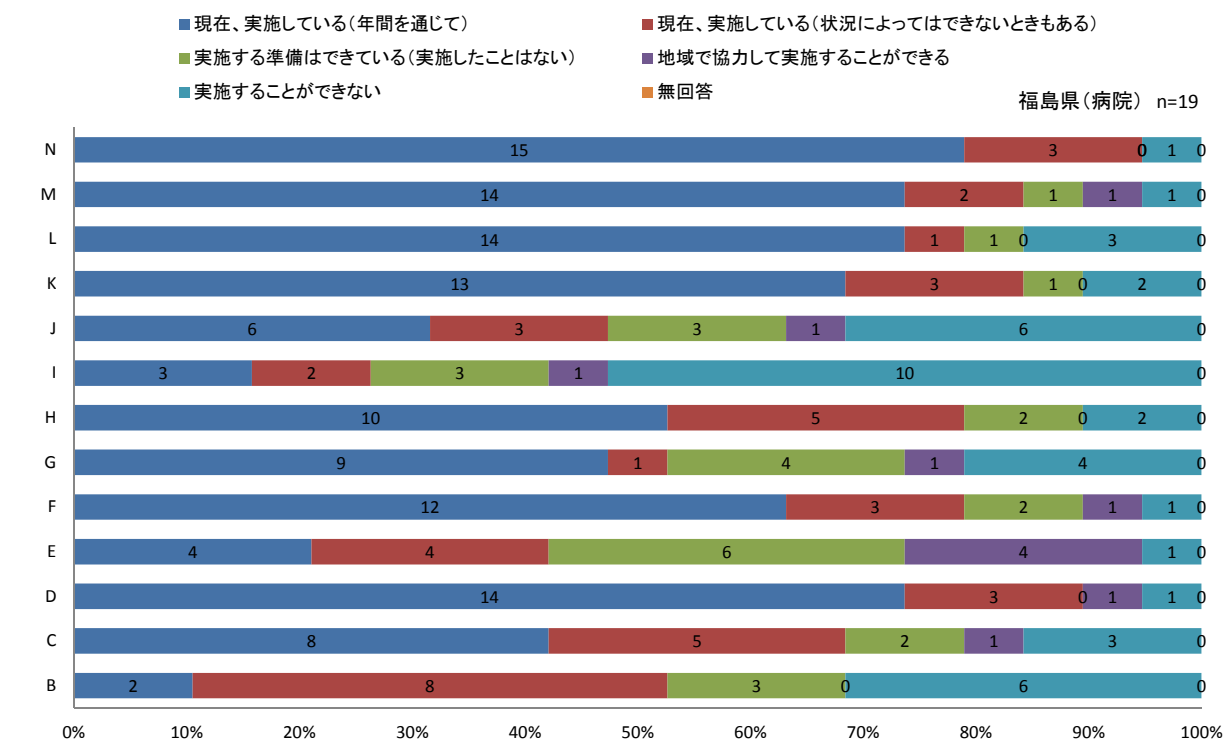
B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。
O: 処方せん調剤における医療機関と薬局との連携や合同で開催される研修会やイベントを体験する。
P: 地域包括センターや保健所等を通して地域で連携して行われている医療、介護、福祉の実際を確認するとともに、できるだけ実際の活動を体験する。
Q: 薬剤師による在宅医療、居宅介護の支援業務(収集した各種情報に基づいた薬物療法の考察と提案等)を患者宅、施設等への訪問も含め継続的に体験し、在宅に関与する医療、介護スタッフと情報を共有し、患者をサポートする意義を理解する。
R: 学校薬剤師の指導のもと学校薬剤師業務を体験する。
S: 地域で行われている薬剤師の関与する保健衛生活動(薬物乱用防止活動、禁煙活動、認知症サポート等)を確認し、地域の活動に積極的に参加する。
T: 一般用医薬品、健康食品、医療機器等について、特徴や注意点等について確認し、第一類医薬品、要指導医薬品等、法規制に則り実際の店頭で指導薬剤師とともに来局者の健康相談と販売業務(受診勧奨や一般用医薬品販売など)を体験する。



B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。 G: 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)の実際を体験する。 H: 周術期医療の実際を体験する。 I: 周産期医療の実際を体験する。 J: 小児医療の実際を体験する。 K: 外来化学療法法の実際を体験する。 L: がん化学療法法のレジメンチェックと抗がん剤調製やケミカルハザードの回避操作を体験する。
M: 代表的な疾患を有する入院患者の薬物治療に継続的に関わり、患者に関する情報の収集と伝達、治療計画の考察、治療効果および副作用の評価等他の医療スタッフとの協働を、複数の病棟活動の中で体験する。
N: カンファレンス、種々の医療チームの活動(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)への参加等、他の医療スタッフとの連携を体験する。



B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。
O: 処方せん調剤における医療機関と薬局との連携や合同で開催される研修会やイベントを体験する。
P: 地域包括センターや保健所等を通して地域で連携して行われている医療、介護、福祉の実際を確認するとともに、できるだけ実際の活動を体験する。
Q: 薬剤師による在宅医療、居宅介護の支援業務(収集した各種情報に基づいた薬物療法の考察と提案等)を患者宅、施設等への訪問も含め継続的に体験し、在宅に関与する医療、介護スタッフと情報を共有し、患者をサポートする意義を理解する。
R: 学校薬剤師の指導のもと学校薬剤師業務を体験する。
S: 地域で行われている薬剤師の関与する保健衛生活動(薬物乱用防止活動、禁煙活動、認知症サポート等)を確認し、地域の活動に積極的に参加する。
T: 一般用医薬品、健康食品、医療機器等について、特徴や注意点等について確認し、第一類医薬品、要指導医薬品等、法規制に則り実際の店頭で指導薬剤師とともに来局者の健康相談と販売業務(受診勧奨や一般用医薬品販売など)を体験する。



B: 終末期医療の実際を体験する。 C: 緩和ケアの実際を体験する。 D: 患者の薬物治療に継続的に関わり、より有効で安全な薬物治療の支援等を体験する。
E: 施設やその地域の災害時の体制を確認し、過去の事例等を参考にして、大規模な災害が発生した際の病院、薬局の業務や地域貢献、薬剤師としての役割等について討議、考察する。 F: 病院内あるいは在宅医療において注射剤(高カロリー輸液等)の無菌的混合操作を体験する。 G: 急性期医療(救急医療・集中治療・外傷治療等)の実際を体験する。 H: 周術期医療の実際を体験する。 I: 産産期医療の実際を体験する。 J: 小児医療の実際を体験する。 K: 外来化学療法の実験を体験する。
L: がん化学療法のレジメンチェックと抗がん剤調製やケミカルハザードの回避操作を体験する。
M: 代表的な疾患を有する入院患者の薬物治療に継続的に関わり、患者に関する情報の収集と伝達、治療計画の考察、治療効果および副作用の評価等他の医療スタッフとの協働を、複数の病棟活動の中で体験する。
N: カンファレンス、種々の医療チームの活動(ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等)への参加等、他の医療スタッフとの連携を体験する。